平成２６年度　言語活動の充実に係るＮＩＥ実践報告

－【研究テーマ】積極的な表現態度を引き出す言語活動の充実（３年次）－

日置市立東市来中学校　今村　佑美

１　はじめに

変化の激しい時代の中，デジタル化が進み，活字離れが著しい昨今，情報機器の普及に伴い，様々な問題が発生している。人間関係の希薄さやコミュニケーションにおける不用意な発言等によって生じる相互不和に悩むなど，言語活動を中心にした相互のかかわりに悩む生徒の姿が見受けられる。このような実態等を踏まえ，平成２４年度からＮＩＥ実践校の指定を受け，国語科での取組からスタートした。２年目からは他の教科や領域での活用が始まり，本校でのＮＩＥの実践に広がりが生まれた。そして，今年度もＮＩＥの実践を通して，生徒たちの言語活動の活性化や充実を目指した。

２　研究テーマ

本校の校訓「学・道・錬」，並びに学校教育目標「相互にかかわりながら主体性を発揮する生徒の育成」を踏まえ，生徒の主体性を育む新しい教育課程の在り方を，言語活動に着目しながら生徒の積極的な表現態度を引き出すため，「積極的な表現態度を引き出す言語活動の充実（３年次）」と設定し，新聞記事等の活用について研究を行った。

本校では，昨年度から「学び合い」の活動に着目し，言語活動の活性化を目指した研究を実践している。そこで，このＮＩＥの取組においても，ただ書いて終わるのではなく，他の人に発信し，良さに気づいたり自分の表現活動に活かしたりする取組も展開したいと考え，本テーマを設定した。

３　研究仮説の設定

(1)　研究仮説

ア　仮説１

> 国語科学習指導の中で，日々のコラムや注目されている話題の記事を基に，週末課題を作成・提示したり，教科書教材と併用して教材化を工夫したりすることで，社会や物事に対する興味・関心を喚起し，語彙を広げたり，論理性を育成したりするなど，生徒の読解力や表現力を育み，積極的な表現態度を引き出す言語活動を展開することができるのではないか。

イ　仮説２

> 作文コンクールや弁論大会，新聞記事，コラムなどの秀文を提供することで，新聞に対する興味・関心を喚起し，感想や考察などをもつことで，生徒の豊かなものの見方や考え方を引き出すとともに，モデルとなる表現を活かしながら自己の表現を工夫するなど，積極的な表現態度を引き出す言語活動につながるのではないか。

ウ　仮説３

> 社会科学習指導の中で，日々のコラムや注目されている話題の記事を導入段階で提示・活用することで，新聞に対する興味・関心を喚起するとともに，学習課題の追究を触発し，解決の手掛かりの獲得につながるなど，課題追究を活性化することができるのではないか。

(2)　研究仮説の設定理由

ア　文章表現や社会事象などに対する興味・関心を高める記事等の教材化
イ　語彙を広げることによる積極的な表現態度の育成
ウ　内容読解を深め，表現力を高める記事等の教材化
エ　優れた表現との出会いを提供することで高まる社会性や国語力の涵養
オ　教科書教材と新聞記事の横断的な活用による国語力の育成

4　年間購読計画

新聞名／月	4	5	6	7	8	9	１０	１１	１２	1	2	3
朝　日				○		○		○		○		
毎　日				○			○				○	○
読　売			○				○		○		○	
日　経					○	○				○		○
西日本					○			○	○	○		
南日本			○	○	○							○

5　研究内容

(1)　週末課題の作成（継続）
　→　生徒の実態に合わせて作成

(2)　語彙を広げる言語事項の学習設定（継続）
　→　調べ学習の充実

(3)　論理性を育む要約や見出し，感想文などの作成（継続）
　→　要約の徹底，小見出しの工夫

(4)　記事を活用した短文づくり（継続）
　→　相手意識や目的意識の確認

(5)　社会科授業における新聞記事の活用（継続）
　→　導入での活用

(6)　提供新聞の図書室への設置（継続）
　→　購買率の低下，活字離れの解消

(7)　生徒による新聞づくり（新規）
　→　見出しや内容の工夫，読み手を意識した表現

6　研究の実際

(1)　週末課題の作成（継続）

前年度から週末課題として，自分の好きな記事について調べたいという生徒からの要望を受け，自分で読み調べ，選択した記事を，その週に発刊された新聞に限定し，課題として設定させていた。しかし，ジャンルが偏る傾向があったことから，本年度は，教師側がいくつか選んだ記事の中から選択させた。

なお，週末課題の課題項目は下記のとおりである。

①　知らない熟語や気になる言葉を３つ選び，辞書で調べましょう。
②　取材した記事の注目点（魅力や気になるところなど）を友だちに紹介しよう。
③　記事を読んで題（見出し）を付け，内容を箇条書きにまとめよう。
④　記事に対する感想やメッセージを書きましょう。

(2)　語彙を広げる言語事項等の学習設定（継続）

①の語彙に関する課題は，当初，自分で調べようとする姿勢が欠けていたが，徐々に自分で調べようとするようになってきた。また，ワークや漢字帳での宅習でも辞書を活用する生徒も出て

きている。すぐに辞書を引く雰囲気を作るようにした。そして，気になった言葉を見つけたときに，自分で調べようとする生徒の育成を目指した。

②の紹介文については，見出しに着目させて紹介文を書かせることから始めた。徐々に記事を読み，自分なりに紹介文を書こうとする姿が見られた。

(3)　論理性を育む要約や見出し，感想文などの作成（継続）

③は要約を目的とした箇条書きでの整理だが，前年度より日常課題の見直しをし，軽減化するために箇条書きに設定している。本年度も同様の形で実施したところ，記事の抜粋だけで終わってしまう生徒が多く，なかなか自分の言葉でまとめることができていなかった。そこで，記事の内容を一文で書かせることに取り組んだ。最初は，文で表現することができなかったが，回数を重ねるにつれて少しずつ改善していった。現在は，記事の中で重要だと考えられる言葉を探し，自分なりに書こうとする姿が見られるようになった。さらに，国語科の授業でも要約をさせると，重要な言葉を探し，まとめようとしている。

④の感想やメッセージの作成は，記事に対して「良い」「反対」という意見とともに，なぜそのように考えたのか理由を添えて書くことができていた。具体的に書けていない生徒には，自分と比較するように助言した。記事によっては，筆者に対する自分の意見を書かせたり，自分の町の紹介文を書かせたりするなど，生徒自身にメッセージを投げかけさせた。（記事を活用した短文づくり）しかし，まだまだ具体的に表現できていない生徒も多いのが課題である。今後も相互評価に取り組ませ，アドバイスをさせることで，よりよい感想文が書ける生徒を育成していきたい。

(4)　記事を活用した短文づくり（継続）

１年次は記事に掲載されている人物宛にメッセージを書かせ，２年次はコラムニストになったつもりでコメントを書かせた。本年度は，記者に対して，自分自身や学校，地域についての紹介文を書く取組を行った。初めは，どのように表現したらいいか迷う生徒も多かったが，記事のテーマをグループで確認することで，テーマに沿った身近な話題を交流することができていた。また，自分自身について振り返ったり地域の良さに気づいたりする良い機会となっていた。

(5)　社会科授業における新聞記事の活用（継続）

昨年度から社会科の授業の導入において新聞記事を活用した取組を実施している。具体的には，指導者が，その日の授業と関連のある記事のほか，社会科に関連のある記事，話題性のある記事などを選び，生徒に紹介している。新聞をあまり読まない生徒も耳を傾け，今，どんなことが世の中では起きているのかということを知り，考える良い時間となっている。

さらに，本年度，夏休みの課題として，新聞記事を生徒に選ばせ，感想を書かせる取組を実施した。生徒は，社会に関連があり，自分の興味のある記事を選び，思ったことをまとめていた。このことからも，生徒は日々，教師から紹介される記事をただ聞いているのではなく，自分の考えをもっているのだと考えられる。

(6) 新聞の図書室への設置（継続）

図書室のスペースの一角に，提供していただいている新聞を設置し，生徒がすぐに手に取れる

ようにしている。時間がなく，読めない生徒もいることから，いつでも読むことができるように１週間分は棚に置き，その他の新聞は後方に保管している。なんとなく図書室に立ち寄った生徒が新聞を手に取る姿が今年度も見られた。特定の興味のある記事しか見ない生徒もいるが，今後も自分から読もうとする姿勢を大切にしたい。そのためにも，設置の仕方を検討したい。

←新聞記事の設置
生徒が手に取りやすいように
日付が見えるように配慮

教育関係の記事のファイル→

（7）生徒による新聞づくり（新規）

１年生の国語科の授業の中で，学校紹介新聞を作る活動を取り入れた。教科書教材ではリーフレットづくりとなっているが，新聞を意識した取組を実施した。一人では書くことが難しい生徒もいるため，グループで協力させた。その結果，相互に読み合い，相手を意識した内容になっていた。また，見出しを工夫しようとする姿が見られた。また，その活動を生かし，トップニュースを書く活動では，個人で新聞を書く活動に取り組んだ。

7　研究の成果

（1）　成果

○　子どもたちが自分で考える場面が少しずつ増えてきている。自分で何かを発信しようとしているので，今後は実際に発信できるようにさせたい。

○　子どもたちは，自分の表現活動で困ったときに，自分で各種コンクールの秀作を参考にするようになりつつある。

○　新聞に対するイメージが変わり，自分で読もうとする生徒が増えた。

（2）　課題

▲　新聞の購買率が年々減少していると感じられた。本年度も生徒自身に新聞記事を選び，感想を書く活動に取り組ませたかったが，家庭に新聞がないため，進めることができなかった。同時に，学校で取り組んでも，学習の日常化が進まない。

8　おわりに

本年度も担当が途中で替わったものの，本年度途中までの取組と前年度までの実践の流れを受け，可能な限り実施することができた。本年度もＮＩＥ実践校として恵まれた環境であったことに感謝したい。情報をインターネットやテレビなど手軽に手に入れられるものに頼ってしまう傾向は依然として残っているが，図書室に掲示されている新聞に手をのばす生徒もいることから，これからの取組次第では，改善されると考えられる。まだまだ教科で活用する余地があることから，発展的な教材として，生徒にもっと新聞を提示する場面を増やしていきたい。